

超短波

◆…「公的医療保険の『哲学』を見直すことが重要だ」と力説する法政大学の黒一正教授。ここでいう哲学とは、制度を支える根本思想を指す。公的医療保険の場合は「財政的リスク保護、簡単にいえば、偶発的疾患による家計の破綻や困窮を防止すること」がそれにあたる。だが「医療財政の持続可能性も考慮した場合、現状のルールが必ずし



も適切とはいえない」と指摘する。

◆…日本では保険診療の自己負担を年齢別に1～3割に分けている。日本医師会や財界が意見を違えている、後期高齢者の負担引き上げに関する議論も、このルールの延長線上にある。これに対し「重い疾患には負担を軽く、軽い疾患には負担を重くしてはどうか。年齢ではなく重篤度を基準に負担割合を操作した方がリスク保護と医療財政を両立できるはず」。